

特殊報

2 病 第 2 6 号
令和 2 年 1 0 月 2 1 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。



発生予察特殊報第 2 号

病 害 虫 名 クロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley)
作 物 名 トマト
発 生 地 域 山城地域の一部

1 発生経過

令和 2 年 8 月、山城地域の施設内で育苗中のトマトの葉に萎ちょう症状が認められ、茎葉にコナカイガラムシ科の一種と推定される成虫と幼虫の寄生が確認された。本虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、府内では未発生の「クロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley)」と確認された。その後、9月に別の施設のトマト苗でも本虫の寄生が確認された。

2 発生分布

国内ではこれまでに、沖縄県（スイゼンジナ、ヒマワリ）、佐賀県（ナス）、福岡県（ミニトマト、ナス）、愛知県（食用トレニア、食用金魚草）、山口県（トマト）、高知県（ナス）、鹿児島県（ミニトマト）、大阪府（ナス）、奈良県（ホウレンソウ）、長崎県（ナス）で発生が確認されている。

海外では、南北アメリカ大陸の他、パキスタン、中国、タイ等のアジア各国、ヨーロッパ、オーストラリア、西アフリカ等世界各地で発生が確認され、分布を広げている。

3 本種の形態及び生態的特徴

(1) 形態

雌成虫は翅を欠き、体形は楕円形。体長は通常 3～4. 2 mm。背面に白色のロウ質物を分泌し、全体としては白く見えるが、ロウ質物が薄い部分があり、成虫及び 2、3 齢幼虫では特徴的な 2 対の黒斑があるように見え（写真 1、2）、1 齢幼虫には見られない。

(2) 生態

雌成虫はワタ状のロウ質物の卵のう内に平均350個程度産卵する。繁殖様式は、交尾後産卵する有性生殖と、単為生殖の両方が知られている。1齢幼虫は数日間卵のう内で過ごした後歩いて分散し、雌は2齢、3齢幼虫を経て成虫になる。雄は2齢幼虫の終わりに繭を作り、前蛹、蛹を経て羽化し、1対の翅を持つ成虫となる。本虫の単為生殖個体群における1世代の発育期間は平均70日程度である。



写真1 雌成虫(体長3~4.2mm)



写真2 雌成虫と幼虫

(3) 食性

広食性で、53科154種の植物への寄生が確認されている。海外ではワタ、オクラ、トマト、ナス等、国内ではその他にキク科、ホウレンソウ等で寄生が確認されている。

3 被害の特徴

寄主植物の葉、葉柄、茎、花芽及び果実に寄生する。吸汁により寄主植物を衰弱させる他、分泌した甘露（糖分を多く含む排泄物）が植物体表面のすす病菌を繁殖させる。

4 防除対策

- (1) 令和2年10月12日現在、トマト等の野菜類で本種に対する登録農薬はない。
- (2) 発生を確認した場合は寄生部位を除去して、適正に処分する。
- (3) 雑草は本虫の発生源となるため、ほ場及び周辺の除草対策を徹底する。

5 参考文献

- (1) 横浜植物防疫所(2010)、輸入検疫で発見された主な重要害虫(*Phenacoccus solenopsis*)、植物防疫所病虫害情報No.92、6
- (2) 田端 純(2017)、侵入害虫クロテンコナカイガラムシの性フェロモンとその利用法、植物防疫 71(7)、467-471